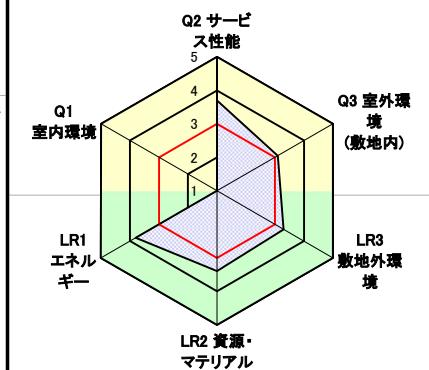
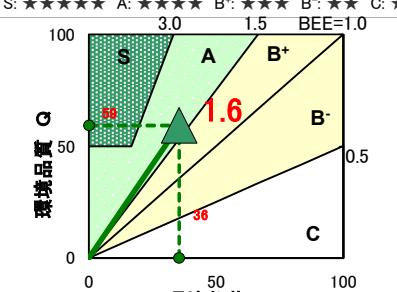
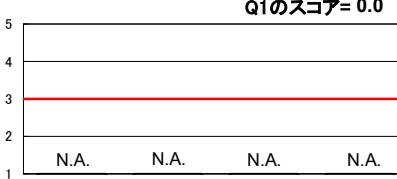
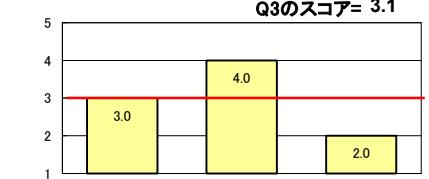
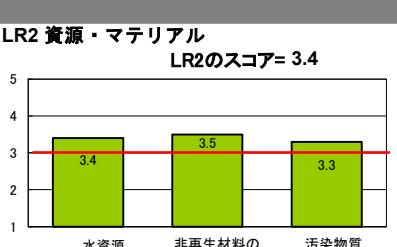
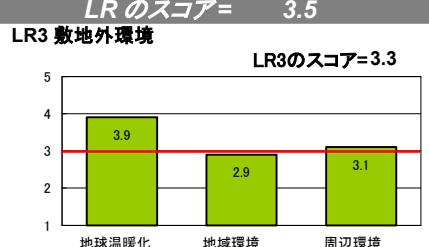


CASBEE®-建築(新築)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.2

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ロジスクエア厚木南新築工事	階数	地上4F
建設地	神奈川県厚木市酒井字櫻戸1(208番地1 ほか40筆(仮換地16街区1画地)ほか176面地)	構造	S造
用途地域	工業地域・指定なし	平均居住人員	100人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場、	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2026年1月 予定	評価の実施日	2025年9月29日
敷地面積	7,050 m ²	作成者	株式会社イズミコンサルティング
建築面積	3,828 m ²	確認日	2025年9月30日
延床面積	14,496 m ²	確認者	鈴与建設株式会社一級建築士事務所

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ホールライフカーボン(温暖化影響チャート)		2-3 大項目の評価(レーダーチャート)									
BEE = 1.6  S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B: ★★ C: ★		 30%: ★★★★★ 60%: ★★★★ 80%: ★★★ 100%: ★★ 100%超: ★											
		標準計算 <table border="1"> <tr> <td>①参照値</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>②建築物の取組み</td> <td>76%</td> </tr> <tr> <td>③上記+②以外の</td> <td>76%</td> </tr> <tr> <td>④上記+</td> <td>76%</td> </tr> </table> このグラフはLR3.1「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参考値)と比べたWLC排出量の目安で示したものです。 ④は参考として運用分をBEI+で表示しています。		①参照値	100%	②建築物の取組み	76%	③上記+②以外の	76%	④上記+	76%		
①参照値	100%												
②建築物の取組み	76%												
③上記+②以外の	76%												
④上記+	76%												

2-4 中項目の評価(バーチャート)			
Q 環境品質 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div> Q1 室内環境 Q1のスコア= 0.0  </div> <div> Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.7  </div> <div> Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 3.1  </div> </div>			
LR 環境負荷低減性 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div> LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.8  </div> <div> LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.4  </div> <div> LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.3  </div> </div>			

3 設計上の配慮事項			
総合 <ul style="list-style-type: none"> 厚木市に新築される物流倉庫である。 高効率な設備機器の採用等により、CO₂削減にも積極的に取り組む計画となっている。 		その他 <ul style="list-style-type: none"> 特になし。 	
Q1 室内環境 <ul style="list-style-type: none"> 評価対象外 		Q2 サービス性能 <ul style="list-style-type: none"> 耐用年数の高い外装材を採用し、建物の耐用性の向上に配慮している。 	
LR1 エネルギー <ul style="list-style-type: none"> 高効率な設備機器を採用し、エネルギーの効率的利用に配慮している。 		LR2 資源・マテリアル <ul style="list-style-type: none"> 軽量鉄骨下地とユニット部材のOAフロアを採用することで、再利用可能性の向上に取り組んでいる。 	
LR3 敷地外環境 <ul style="list-style-type: none"> 燃焼機器の設置をなくし、大気汚染防止に配慮している。 			

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量で表示。

■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

無断転載禁止

スコアシート 基本情報		環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
配慮項目	竣工段階						
Q 建築物の環境品質							
Q1 室内環境							
1 音環境							
1.1 室内騒音レベル	-		-	-	-	-	
1.2 遮音	-		-	-	-	-	
1.3 開口部遮音性能	-		-	-	-	-	
1.4 界壁遮音性能	-		-	-	-	-	
1.5 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-		-	-	-	-	
1.6 界床遮音性能(重量衝撃源)	-		-	-	-	-	
1.7 吸音	-		-	-	-	-	
2 溫熱環境							
2.1 室温制御	-		-	-	-	-	
2.2 外皮性能	-		-	-	-	-	
2.3 ゾーン別制御性	-		-	-	-	-	
3 光・視環境							
3.1 昼光利用	-		-	-	-	-	
3.2 方位別開口	-		-	-	-	-	
3.3 昼光利用設備	-		-	-	-	-	
3.4 グレア対策	-		-	-	-	-	
3.5 昼光制御	-		-	-	-	-	
3.6 照度	-		-	-	-	-	
3.7 照明制御	-		-	-	-	-	
4 空気質環境							
4.1 発生源対策	-		-	-	-	-	
4.2 化学汚染物質	-		-	-	-	-	
4.3 換気量	-		-	-	-	-	
4.4 自然換気性能	-		-	-	-	-	
4.5 取り入れ外気への配慮	-		-	-	-	-	
Q2 サービス性能			-	0.43	-	-	3.7
1 機能性			-	-	-	-	
1.1 機能性・使いやすさ	-		-	-	-	-	
1.2 高度情報通信設備対応	-		-	-	-	-	
1.3 パリアフリー計画	-		-	-	-	-	
1.4 心理性・快適性	-		-	-	-	-	
1.5 広さ・景観	-		-	-	-	-	
1.6 リフレッシュスペース	-		-	-	-	-	
1.7 内装計画	-		-	-	-	-	
1.8 維持管理	-		-	-	-	-	
1.9 維持管理に配慮した設計	-		-	-	-	-	
2.0 維持管理用機能の確保	-		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性			3.3	0.50	-	-	3.3
2.1 耐震・免震・制震・制振	-		3.0	0.50	-	-	
2.2 免震・制震・制振性能	-		3.0	0.80	-	-	
2.3 床材に浸透性表面強化剤を採用	-		3.0	0.20	-	-	
2.4 部品・部材の耐用年数	-		4.0	0.30	-	-	
2.5 外壁仕上げ材の補修必要間隔	-		3.0	0.20	-	-	
2.6 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	-		5.0	0.20	-	-	
2.7 空調換気ダクトの更新必要間隔	-		5.0	0.10	-	-	
2.8 空調・給排水配管の更新必要間隔	-		3.0	0.10	-	-	
2.9 主要設備機器の更新必要間隔	-		5.0	0.20	-	-	
2.10 耐震クラスA	-		3.0	0.20	-	-	
2.11 通信手段の多様化、精密機器の地下空間への設置回避、災害情報の入手の取組がある。	-		4.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり	3.9m以上を確保	4.0	0.50	-	-	4.0
	1 階高のゆとり	レイアウト変更等に対応できる計画	5.0	0.30	-	-	
	2 空間の形状・自由さ	床、架構、地震用の積載荷重について20%の割増値がある。	5.0	0.60	-	-	
	3.2 荷重のゆとり	-	4.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性	-	3.4	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	ケーブルラックによる露出配線	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	ケーブルラックによる露出配線	5.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	-	5.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57	-	-	3.1
1 生物環境の保全と創出	-		3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮	白やグレーの外装材によるまちなみ調和と、緑化による景観形成		4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-		2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	-		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI _m =0.59		5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用(直接利用)	-		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	BEI _m =0.45		4.2	0.50	-	-	4.2
集合住宅以外の評価			4.2	1.00	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4 効率的運用に向けた取組み			2.2	0.20	-	-	2.2
集合住宅以外の評価			2.2	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	-		3.0	0.40	-	-	
4.2 運用管理体制	-		1.0	0.40	-	-	
4.3 非化石エネルギーの導入の拡大	-		3.0	0.10	-	-	
4.4 コミッシュョニングの推進	-		3.0	0.10	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング	-		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制	-		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水	省水型機器等を過半以上に採用		4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	-		3.0	0.70	-	-	
2 雜排水等利用システム導入の有無	-		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.5	0.60	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減	使用材料の削減に寄与する工法を採用		4.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	-		3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	-		-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	壁と天井にLGS下地、床にOAフロアを採用		5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1 消火剤	-		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつ、GWP値の低い断熱材を採用		4.0	0.50	-	-	
3 冷媒	-		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮	LCCO ₂ の低減率22%		3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			2.9	0.33	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止	燃焼機器の採用はない		5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	-		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	-		3.0	0.25	-	-	
2 污水処理負荷抑制	-		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	附置義務以上の駐車場確保、荷捌き用駐車場の設置、幅広の車両導入路の設定		4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	-		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音	-		3.0	1.00	-	-	
2 振動	-		-	-	-	-	
3 悪臭	-		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制	-		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制	-		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制	高効率な照明の採用と適切な範囲の照明計画とした		3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-		4.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-		3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	3.0		○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	8.0		2.0	-	2.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	4.0		2.0	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0		-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	4.0		-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	2.0	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用(直接利用)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4.1.4 コミッショニングの推進	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.1 雨水利用システム導入の有無															
1.2.2 雜排水等再利用システム導入の有無															
2.1 材料使用量の削減	3.0		-	-	3.0		-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 車体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	4.0		1.0	-	1.0	-	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	3.0		-	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	1.0		-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標**Q1 室内環境**

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	-	窓の日射熱取得率(η)	-	外壁	-	床	-
U値(W/m2K)	窓システム	屋根	-	外皮U値	-	η AC	-
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	-	η AH	-		
3.1.1 昼光率	0.0%	-	-	-	-	-	-
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率	0.0%	-	-	-	-	-

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース	.0m ² /人	病床	.0m ² /床	シングル	.0m ² ツイン	.0m ²
コンセント容量	0.0 VA/m ²	-	-	-	-	-
天井高	0 m	-	-	-	-	-
リフレッシュスペース	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
想定耐用年数	- 年	-	-	-	-	-
想定必要間隔	30 年	-	-	-	-	-
想定必要間隔	30 年	-	-	-	-	-
想定必要間隔	- 年	-	-	-	-	-
階高	6.05 m	-	-	-	-	-
壁長さ比率	9.0%	-	-	-	-	-
床荷重	15000 N/m ²	-	-	-	-	-

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指標	32%	建物緑化指標	0%				
空地率	46%	水平投影面積率	8%	地表面対策面積率	17%	舗装面積率	34%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI _m	0.59	断熱等性能等級	0 相当			
影響範囲の割合	0.0%	採光を満たす教室数	0.0%	採光を満たす住戸数	0.0%	
		通風を満たす教室数	0.0%	通風を満たす住戸数	0.0%	
		太陽光 .0kW	太陽熱等 .0kW	蓄電池 .0kWh		
BEI/BEI _m	再エネ有 0.45	無 0.45	オササト再エネ有	- OOGJ/年	-	
一次エネ削減率	再エネ有 #####	無 #####				

3 設備システムの高効率化

雨水利用率	0.0%					
特定調達品目	ビニール床タイル	エコマーク商品	-	自治体指定の特定品目等	-	
使用比率	0.0%	-	-	-	-	-
オゾン層破壊係数(ODP)	-	地球温暖化係数(GWP)	-	-	-	-
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	3	-	-	-
オゾン層破壊係数(ODP)	-	地球温暖化係数(GWP)	-	-	-	-

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

見付面積比	73% 隣棟間隔指標Rw 0.19						
地表面対策面積率	24.0%	屋根表面対策面積率	0.0%	外壁表面対策面積率	0.0%		
見付面積S _b	1.781 m ²	卓越風向と直交する最大敷地幅W _s	111.401 m	基準高さH _b	21.79 m		
緑地	706 m ²	水面	m ²	保水性対策面	m ²	高反射対策面	m ²

2.2 温熱環境悪化の改善